



七福神めぐりで 福来たる。 町おこしの秘策



文化財や豊かな自然を感じながら、邑楽町の魅力を再発見してもらおうと、上州邑楽七福神を愛する会の主催による七福神めぐりも来年10周年を迎えます。今回の特集では、七福神めぐりで町おこしにつなげようと活動している上州邑楽七福神を愛する会の皆さんへの取材を通して、その秘策に迫ります。



邑楽 みんな
みんなに、
ありがとう

・・・これからもどうぞよろしく。

みんなに支えられているから育児ができる。きつとママたちは、こんな気持ちをもっていきます。どうぞ、地域のみなさん、あたたかい目で見守っててください。
取材にご協力くださったみなさま、たくさんの笑顔をどうもありがとうございました。
街角特派員 浅海優子

七福神めぐりで皆さんが、邑楽町の自然と文化財に目を向け、古里を見直すきっかけづくりをしたい」と語るのは、上州邑楽七福神を愛する会代表 鈴木隆行さん。

「私は会社を定年退職後、邑楽町の活性化と、人のために役立つことをしたいと思っていました。当時『邑楽町の歴史を学ぶ会』で郷土の歴史を学んでいました。文化財に目を向けた一因は当時、講師を務めていただいた田野諒先生の熱心な教えがあったからです」と話してくれた鈴木さん。

この町には、歴史的文化財がある。「健康」のために歩き、立ち止まってこれを「学び」、そして「地域活性化」につなげる。この3つのキーワードをもとに着目したのが、七福神めぐりでした。

鈴木さんは、七福神めぐりが行われている地域に自ら足を運び研究し、関連資料やグッズも集めたといいます。「順路や時間をどのように設定するか、とても苦労しました。もちろんお寺のご住職のご協力がなければ七福神めぐりは成り立ちませんので、お話しを伺いながら準備を進めました」と、当時は振り返ります。

「より多くの人たちに参加してもらうための新たな取り組みをいつも考えています。参加していただいた人の喜びの声を聞くと、企画してよかったと思います。お手紙などをいただいたときは、本当に感無量です。人と人とのつながりは、素晴らしいものです。多くの人たちが笑顔になれることこそ、地域活性化につながる近道だと思います」と鈴木さんは語ります。

「来年、七福神めぐりも10周年を迎える節目の年。歩くのが困難で今まで参加できなかった人のために、バスで七福神をめぐる企画もしています」と次なる一手を明かしてくれました。

より多くの人に参加してもらい地域の活性化につなげたい、老練な代表の挑戦はまだまだ続くのでした。

→七福神をモチーフにした切り絵は、親しみの持てる作風（鈴木隆行さん作）



↑鈴木さんの切り絵作品は、役場2階にも展示してあります



↑町内外からたくさんの方が参加します



←「招福帳」に七福神スタンプを押して、スタンプラリーを楽しむこともできます



招福帳



代表 鈴木隆行さん
(水立大黒・23区)

●上州邑楽七福神を愛する会

「たくさんの人たちの笑顔づくりが、地域活性化につながると思っています」

七福神めぐりで「笑顔づくり」

「より多くの人たちに参加してもらうための新たな取り組みをいつも考えています。参加していただいた人の喜びの声を聞くと、企画してよかったと思います。お手紙などをいただいたときは、本当に感無量です。人と人とのつながりは、素晴らしいものです。多くの人たちが笑顔になれることこそ、地域活性化につながる近道だと思います」と鈴木さんは語ります。

人と人とのつながりが地域活性化へとつながる



第一番「石打慶徳寺・大黒天」を
出発する上州邑楽七福神めぐりの一行

自動車より自転車。自転車よりは歩きの方が、立ち止まって新たな発見がしやすいのです。無理せず欲張らずに一つ二つと発見ができればいいのです。

邑楽町文化財保護調査委員
大塚孝士さんの言葉



古里再発見

〔七福神めぐりの原点〕

古里再発見の企画が開始

邑楽町の七福神めぐりは、邑楽町公民館で活動していた高齢者のサークル「路満倶楽部」の皆さんが「おうちの招福めぐり」として、町に残る七福神を回ったことが、その起源です。

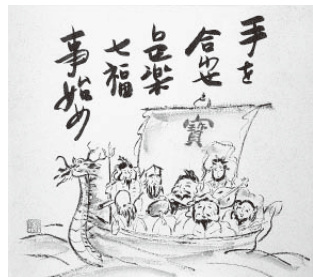
その後、鈴木隆行さんが引き継ぎ、上州邑楽七福神を愛する会を発足させると、企画も新たに現在の「上州邑楽七福神めぐり」が開催されることになったのです。

会の主催で七福神めぐりが初めて行

われたのは、平成16年1月。新年祈願に合わせて、1月の第1・2土曜日の2回と、花見を兼ねて4月に1回、年間合計3回行われています。

上州邑楽七福神めぐりは、町内の寺社にある七福神を歩く、スタンプラリー形式のウォーキング。楽しみながら自然や文化財に触れて、古里を再発見してもらうことが目的です。

来年の1月には、10周年の節目を迎える上州邑楽七福神を愛する会。その新たな取り組みが、今始まるようになっています。



鈴木隆行さん作



支える人たち 古里の魅力を再発見するために

チカラの結集と結晶

ボランティアの皆さんで運営されている上州邑楽七福神を愛する会、参加者の皆さんに邑楽町の魅力を再発見してもらう取り組みと、さらなる発展をするための課題について伺いました。



↑ご住職の法話を聞くのも、魅力のひとつです

日本一周を達成した健脚

栃尾利晴さん(前原4区)



「七福神めぐりを観光名物として売り出せば、町おこしの起爆剤になると思います」

七福神めぐりで一番の魅力はと聞かれて、「距離が長いだけに完歩したときには達成感があるし、歩きながら邑楽町の豊かな自然を感じられます」と語るのは栃尾利晴さん。

栃尾さんは、2010年に自転車ですべて日本一周11,510kmを、62歳にして走破したつわもの。

スタッフとして道中をめぐっているときは、「参加者の交通事故が一番心配です。ですから、道中の交通安全には特に配慮しています」と日本一周を交通事故なしに無事達成した人ならではのコメント。

「自分が楽しんでいるから、決してボランティアという意識はないんです。七福神めぐりのときは参加者の人と歩きながら並んで話すので、友人知人が増えました。人と人のつながりが生まれます」と、もうひとつの魅力を明かしてくれました。

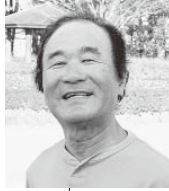
今後について、「七福神が町の観光スポットになるように、若い人たちの意見も取り入れたいですね。町おこしの一環を担うイベントとするためには、若い人の創意工夫も必要です」と栃尾さんは話します。



↑七福神めぐりの完歩後、参加者の皆さんへあたたかい豚汁を、配付したこともありました

七福神めぐりの先導役

藤井徳造さん(石打20区)



「参加者の皆さんへの心遣いを常に忘れず、楽しみながら先導役を務めたいと思います」

第1回目のときから参加。その後スタッフとして召集されたのは、藤井徳造さん。「鈴木代表に誘われて会に入りました。今では隊列の先導役として会のみんなや、参加者の人から『隊長』なんて愛称で呼ばれています」とにこやかに語ります。

藤井さんは、参加者の歩くペースや休憩時間なども配慮しながらゴールを目指す、七福神めぐりにはなくてはならない先導役。

「ペース配分は大変ですが、毎年参加してくれる人と出会う楽しみがあります。初参加の人とは、できるだけ会話を楽しむようにしています」と参加者への心遣いを欠かさない藤井さん。

「会のメンバーは、みんな個性のあるいい人ばかりです。結束力も強い。この強みを生かして、邑楽町のいいところを参加者にこれからも伝えていきたい」と抱負を語ります。

「七福神めぐりのために、7~8kmは歩くのが日課です。これが続く限りは、皆さんの先導役を務めることができます」と健脚自慢の隊長は、力強く語ってくれました。



↑参加者の人と会話を楽しみながら、町の宣伝も欠かさない先導役の藤井さん

「開運ひろば」の編集長

山形武さん(石打20区)



「私の手作り新聞が、七福神めぐり参加のきっかけになってくれるとうれしいですね」

手作りの七福神めぐり新聞「開運ひろば」の編集を担当しているのは、山形武さん。原稿を提供してもらい、パソコンを駆使して新聞を作り始めたのは、平成19年1月のことでした。大好きなスキーをするための体力づくりと思い、七福神めぐりに参加したのをきっかけに今では、七福神めぐりの新聞発行になくてはならない編集長です。

「定年退職後、情報の専門学校に通いパソコンの基本操作を学んだので、自分の勉強のためにも新聞作りを引き受けました。今では、楽しみながら編集をしています」と山形さん。パソコンに向かい、のんびりと一週間かけて「開運ひろば」を編集するそうです。

「七福神めぐりはウォーキングの要素もあり、季節を感じながら歩くので健康にもよいです。人との出会いもまた魅力のひとつです。会社の元同僚と久しぶりに、ばったり出会うなんてこともありました。今後は参加してくれた人が、このイベントにさらなる価値を見いだすような工夫ができればいいですね」と山形さんは語ります。



↑山形さんが、編集を手掛けている七福神めぐりの新聞「開運ひろば」

自分なりの楽しみ方で七福神めぐりを満喫

「七福神めぐりでは豊かな自然を感じながら、歩くことができます。多々良沼で色鮮やかなフワヒを見るのも、私は好きですね」と語るのは金子昇さん。金子さんは、5年前スキー仲間との山形武さんに誘われて、七福神めぐりに参加したのがきっかけで、今ではスタッフとして隊列のしんがりを務めています。

「木工が好きなので、長柄神社の彫刻にはとても興味があります。素晴らしい彫刻を見ながら、この彫刻が施されている木材同士の継ぎ目は、いったいどこにあるのだろうかなどと、参加するたびに自分なりの楽しみ方をしています」

金子さんは木材を加工して、うすやきねなどを作ってしまうほどの木工の腕前。空いた時間には、山に分け入り杉の木を伐採するアウトドア派でもあります。そんな金子さんは、自分なりの楽しみ方を七福神めぐりでも見つけました。「楽しみ方は個人個人で違々と思いません。楽しみを何か見つけたいと長続きはしません。何かしら楽しみは見つかるものですよ」と最後に語ってくれました。



七福神めぐりの楽しみを語る金子昇さん(石打20区) 上州邑楽七福神を愛する会

多くの人に町の魅力を発信していきたいです

「より多くの人たちに参加してもらい、地域の魅力を再発見してもらいたい」と語るのは、根本康男さん。参加者獲得の秘策として挙げたのが宣伝力。

根本さんは、「七福神めぐりをどうPRしていくかが重要です。今や情報は目まぐるしいスピードで動いています。さまざまなモバイルを駆使して宣伝するのも一つの手段だと思います。若い人たちは、ネットから数多くの情報を得ていますからね」と宣伝手段の重要性を強調します。

「リピーターが広がる要因は、この時期には七福神めぐりが行われるんだってなと自然に思い出し、その人にとつての恒例行事となることです。その意識づけとして七福神めぐりにそれまっつわる枝葉の情報、例えば文化財や町の見どころ、お得な情報などもその都度発信していく必要があると思います」

今後の課題として根本さんは、「時間配分とコースの見直し、参加者の皆さんが目的の地先でほっと一息できる時間の確保」を挙げます。



宣伝力の重要性を語る根本康男さん(十三坊塚6区) 上州邑楽七福神を愛する会

「皆さん温かい人ばかりで、参加するのが楽しみです」

「7年の七福神めぐりには、

参加者から見た七福神めぐり



高瀬 妙次郎さん (前橋市)

「邑楽町の七福神めぐりは、新年の楽しみの一つになっています」と語るのは、前橋市在住の高瀬妙次郎さん。新聞のイベント欄を見たのがきっかけで、2009年1月の参加以来、毎年の恒例行事となつていっています。

高瀬さんは、「邑楽町の田園風景や豊かな自然、寺社の皆さんの心づくしのおもてなしに感銘を受けました。参加者の皆さんと会話をしながら歩くのもとても楽しいです」と話します。

←邑楽町の歴史を感じながらお参りする高瀬さん

恵比寿天 (えびすてん) 福利をもたらす富の神 第一番 幟 長柄神社 【所在⇒篠塚2907】

見どころ

本殿彫刻 (町指定重要文化財)



長柄神社は、邑楽郡一の格式ある神社です。本殿の彫刻が施されたのは安永8年(1779)

布袋尊 (ぼていそん) 布袋和尚は実在した僧といわれています。福德円満の神 第二番 幟 篠塚 大信寺 【所在⇒篠塚3999-2】

見どころ



篠塚伊賀守菩提所 篠塚伊賀守重広は、太平記の時代、新田義貞の家臣として新田四天王と呼ばれた天下無双の豪傑

←宝篋印塔(ほうきょういんとう)

七福ポスト 各寺社に設置されたこのポストは、七福神や邑楽の魅力が込められた俳句や短歌、スケッチ、写真などの投稿を受け付けるものです

寿老人 (じゅうろうじん) 健康長寿の福神 第二番 幟 中野 永明寺 【所在⇒中野2933】

見どころ

キンモクセイ (国指定天然記念物)



元弘元年(1331)、永明寺を開基した夢窓国師(むそうこくし)お手植えと伝えられ、樹齢は約700年

大黒天 (だいこくてん) 生産豊作・財福の神 第三番 幟 石打 慶徳寺 【所在⇒石打1055】

見どころ

山門 (町指定重要文化財)



慶徳寺は、正伝寺の跡に天正元年(1573)鉄翁霜金和尚(てつおうそうきんわじょう)によって創建。山門は当時のもの

上州邑楽七福神めぐりで 自然と文化財を旅する おうらの自然を感じながら 知的好奇心が膨らむ旅

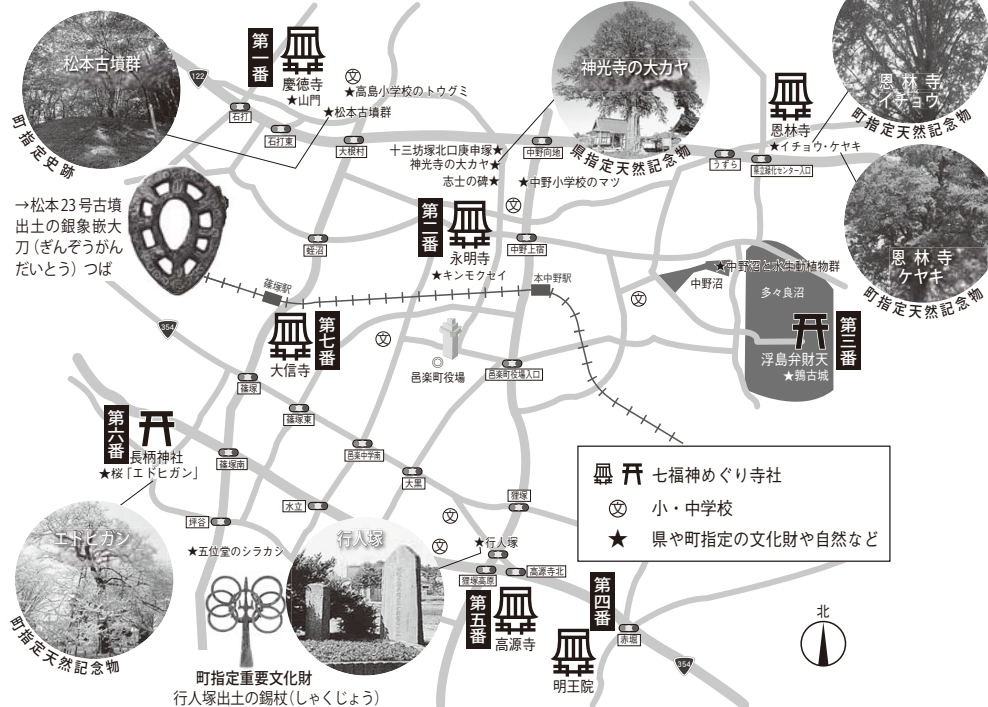
七つの寺社をめぐり、七福神に会える。その見どころを一部で紹介いたします。その他にも邑楽町には、数多くの文化財が点在しています。

七福神めぐりで 特集 福來たる *町おこしの秘策*



取材を終え 古里再発見の願いが込められた「秘策」 今回の特集では、上州邑楽七福神を愛する会の皆さんにスポットをあてました。文化財や各寺社をめぐり、豊かな自然を感じながら古里を再発見してもらおうという会の取り組みは、地域活性化の願いが込められていました。 鈴木代表をはじめとした会の皆さんへの取材を通して見えてきたもの、それは「人と人とのつながり」が七福神めぐりで生まれるということでした。各寺社の皆さんの協力、そして参加者の皆さんとのつながり。「人の出会いと交流を育むことが、地域活性化として町おこしへとつながる」と鈴木代表は言います。 来年度10周年という節目の年を迎える上州邑楽七福神めぐり。参加者を広げ、課題に対する会の挑戦はまだ続きます。しかし、それは町おこしの一端を担う新たな試金石となるかもしれません。

取材を終え 古里再発見の願いが込められた「秘策」



お知らせ Information

新春恒例 上州邑楽七福神めぐり 期日 (雨天決行) 平成25年1月5日(日) 12日(土) 時間 午前9時〇出発 持ち物 弁当、飲み物、雨具など ※歩きやすい服装で、お越しく下さい。 参加費 100円(保険代) 申込方法 当日、申込を受け付ける 集合場所 シンボルタワー(駐車場) 問合先 上州邑楽七福神を愛する会(鈴木) 88-4709

特別企画 七福神めぐりバスの旅 期日 平成25年1月19日(日) (雨天決行) 集合時間 午前9時 出発〇午前9時30分 対象 65歳以上で、七福神をめぐりたいが 体力的に難しい人 持ち物 弁当、飲み物、雨具など ※歩きやすい服装で、お越しく下さい。 参加費 200円 (バス代・保険代) 定員 35人(先着順) 申込開始 12月17日(日) 午前9時~ 申込・問合先 役場生涯学習課 47-5043

特別企画 上州邑楽七福神めぐり 発定10周年記念展 ~招福帳スタンプラリー新聞からみる10年の歩み~ 期日 平成25年1月5日(日)~20日(日) 会場 町立図書館(1階展示室) 問合先 上州邑楽七福神を愛する会(鈴木) 88-4709

毘沙門天 (びしゃもんてん) 仏教の守護神 第五番 幟 狸塚 高源寺 【所在⇒狸塚377-2】

見どころ



分福茶釜伝説 高源寺にいた僧侶守鶴は正体がタヌキであることを住民に知られ、寺の茶釜を持って逃げたという伝説

福祿寿 (ふくろくじゅ) 幸福・福祿・長寿の神 第四番 幟 赤堀 明王院 【所在⇒赤堀464-1】

見どころ



揚船(あげぶね) 明治43年8月の大水害を教訓に住民が浄財を出し合い、赤堀地内のお伊勢様(神社)境内の杉の大木を伐採し造船したもの(5隻造船)

弁財天 (べんざいてん) 水の神・芸術の女神 第三番 幟 鶯新田 浮島弁財天 【所在⇒多々良沼公園内】 守護は、恩林寺【所在⇒第299】

見どころ



鶯古城(町指定史跡) 鎌倉時代末期、僧の慧性(えしやう)と弟の荒間朝春(ともはる)によって築られました ←上空から見た鶯古城